

D—2 父親の不在が子供の性格にどんな影響を与えるか

都中央区立明石中 山本美恵子

1. 両親のある子と父の不在の子の性格、性格形成に影響する親の態度、家庭の状況を比較し、父の不在が子供の性格に与える影響を見る。

2. 中学一年・高校二三年の男女を対象とし、質問紙法によった。

3. 性格については、中学男子では反社会的非社会的傾向がみられた。また0～6歳に父を欠いた子は精神的成熟は有意な差で成熟しているが、父を欠いた時期の不明なものはおとっていた。女子では、父を欠いた時期が0～6歳と不明の子が非社会的、情緒不安定の傾向を示していた。特に不明の子は反社会的で精神的成熟もおとっていた。高校男子では、有意な差で非社会的、情緒不安定の傾向を示していた。また、不明な子は反社会的で精神的成熟のおとっている傾向が見られた。女子では男子と反対の傾向を示し、両親のある子よりすぐれた傾向を示した。親の態度をみると男子では、拒否的態度、厳格的態度がとられていた。高校男子では有意な差で矛盾的態度がとられていた。女子では溺愛的盲従的態度がとられ、拒否的態度、厳格的態度はとられない傾向がみられた。家庭の状況では男女、中高とも不安定な傾向があった。

このことから父親の不在ことは単に経済的問題だけでなく、母親の態度、子供の性格にも大きな影響を与えている。またこの影響は、性、年齢、父がなくなった時期にも関係があることがわかった。